

# 浩然

「思いやりを持ち 健やかで 確かな学力を  
身に付け ふるさとを愛する生徒の育成」

香美町立村岡中学校通信

No. 10 2016. 12. 8 (THU.)

## はつしぐれ 初時雨 猿も小菘をほしげなり ばしろう 芭蕉

### 「叱る」ということ

今、人を叱るというのは本当に難しくなりました。よかれと思って心を尽くし、言葉を尽くして言っても、またわかりやすくと思ひ、取立てあまり上品でない言葉を使うと、上げ足をとられるし、逆恨みされることもあるかもしれません。少なくとも、「叱ってくれる」というのは自分に対する愛情の一つですから、感謝とはいかなくても、叱られた背景や意図は汲んで欲しいと思います。「叱る」方が辛い、という場合もあるのです。友人などに聞くと、大人相手の方が難しいとよく言います。妙なプライドだけは強いので、言い訳が多いのだそうです。子どもたちの方がよっぽど素直に人の話を聞いてくれる、ということもよくある話です。だから、小中学生のうちに、学校として大人の責任として、きちんと道理を教えておきたいと、私たちは思っています。もっと言えば、叱り役、嫌われ役になっても、たとえ今はわかってもらえなくても、近い将来理解してくれればいいとも思っています。

さて、「叱る」と「怒る」の違いを認識し、一時の自分の怒りを分析するのも親としての役目かもしれません。自分の機嫌が悪いとき、「当たり散らす」ように、子どもの行動を怒ってしまう場合があります。私はそういうときはあとで素直に子どもに謝るのがいいと思います。「さっきはいろいろして八つ当たりして、ごめん」と。

子どもたちは、実は親が思っているよりもずっと親の機嫌をうかがっています。叱られた事実は事実だけれども、そのとき自分の行動よりも、親の不機嫌の方が勝っていたなんてことは当然見抜いています。だからこそ、素直に謝ることで、子どもは自分の親の「公平さ」を認めるようになります。一度怒ってしまったから、もうええわ、というのは無責任です。子どもという生き物は、どんなときでも息を殺して親の心遣いを気にしています。そういう子どもの胸の内をいつも気遣ってあげなければ、と思います。



(3年思春期ふれあい体験)



(1年企業訪問)



(3年宝樹保育園児との芋掘り)



(3年保健講話)→

### 間もなく 新図書室完成!

7月から始まった校舎改修工事ですが、内装や壁面塗装、LED照明交換などを終了し、現在エレベーター棟と新図書室工事が急ピッチで進められています。大きな工事音が鳴るなど、生徒たちには迷惑をかけていますが、いよいよ新図書室が今月で完成します。その後、保健室やカウンセリングルームなど、2月末まで工事は続きます。

### 文化面の活躍

◎村岡区「みどり」の作品コンクール

【書道の部】	公民館長賞	西谷 美音③
	森林組合長賞	西田 一步③
	特選	田中 鈴③
	入選	中村 美結③
		田中 音々③
		岸本 梨音②
		鉄屋 陸③
		西垣 佳華②
	佳作	今木 愛心①

◎【絵画の部】文化協会長賞

	特選	西谷 美音③
	入選	井口 海瑠紀③
		田野 優夏②
	佳作	岡沢 杏里②

◎兵庫県中学校総合文化祭展覧会

【美術部門】	特選	田中 音々③
	入選	片山 美桜③
		西垣 佳華②

◎香美町交通安全ポスター

	議長賞	岡沢 杏里②
	2年1等賞	吉岡 壮馬② 福井 若菜②

◎美方郡防火ポスター

入選 宮脇 友梨③

◎美方郡中学校造形教育展

入選	片山 美桜③	田中 鈴③
	田野 優夏②	西垣 佳華②
	今木 愛心①	
佳作	大切 美咲①	岡沢 実里①
	山根 一真①	

◎但馬造形教育展

入選 田中 鈴③ 西垣 佳華②

◎但馬西部河川海域環境保全ポスター展

特選	中尾 優心①	
佳作	大切 美咲①	岡沢 実里①
	山根 一真①	

◎「税の作文」コンクール

入選 西谷 美音③

### キャリア教育公開授業開催

11月25日、昨年から村岡校区として推進指定を受けている「キャリアノート活用に係る研究事業」の公開授業を開催しました。

当日は、兎塚小・村岡小の6年生にも来てもらって、チャレンジプランの算数の授業の他、1年生は総合的な学習で、ふるさと学習の一環で行った町内企業訪問の報告発表を織り交ぜながら、「人とのつながり」をテーマに学習しました。また、2年2組では道徳「アキラのくじ運」という教材を使って、働くことについて考えました。

一部には、学習の基本である、人によく聞こえるように話す、発言は最後まではっきりと言う、あてられたときの返事、拳手の仕方、わかっても手を挙げないなど、課題ももちろんありますが、班での学習や話し合いなどによく慣れていることや、ワークシートへの記入など、皆が黙々とよく書いている、という感想を県教委指導主事の先生からいただきました。書くことは、確かにしんどいですが、考えていなければ書けないので難しいことではあるのですが、本校の生徒の場合は、経験値もあり、よくあれだけ書くことがあるなあ、と思うほど書ける生徒が多いと思います。

町内外から多数の先生方が来校、授業を見ていただきました。学校としても、生徒としても自信につなげて欲しいと願っています。(文責:才田 寛)

2年・道徳→



←1年  
総合的な  
学習の時  
間

### 全国学力・学習状況調査の結果

本年度の「全国学力・学習状況調査」の結果分析、成果と課題等を裏面に掲載しております。ご一読ください。

## 全国学力・学習状況調査の結果分析等について

学力に関しては、「国語A」・「数学A」（主として知識）、「国語B」・「数学B」（主として活用）の4つの調査とも、全国・県平均を上回る結果が出ています。

1 分析・課題（観点ごとの具体的な課題については割愛）

【国語科】

○全国・県と同様に「言語についての知識・理解・技能」「伝統的な文化と国語の特質に関する事項」にやや課題がある。

△どの領域においても活用する力は多くの生徒が身につけているが、「読むこと」を「書くこと」に活用することが課題である。

【数学科】

○領域別では、数学A・Bとも「関数」「数と式」では、全国平均とほぼ同程度、「図形」や「資料の活用」についてもかなり上回る傾向にある。

△正答率については、高い生徒も多くいる反面、その逆の生徒も若干見られる。問題によっては、無回答率が高い実態もある。

●「数学的な見方や考え方」にやや弱い面があり、また出題形式では、「記述式」の設問に対して課題がある。

【生徒質問紙から】

〈読書について〉

「読書は好きですか。」の問いに対しては、肯定的な回答が多い。ただ、「学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか。」の問いに対しては、「10分以上、30分より少ない」の回答が最も多い。逆に、「全くしない。」は、1割5分程度いる。総じて、「読書に取り組もうとしている。」という傾向は見られる。「朝の10分間読書」の継続的な取組なども好影響を与えていると考えられる。

〈家庭学習について〉

「1時間以上、2時間より少ない。」と回答している者が最も多い。ゲーム、スマホなどに関わる時間とも大きく関連していると考えられる。

〈新聞について〉

「ほとんど、または、全く読まない。」との回答が、3割程度ある。依然として、新聞の活字に触れる機会の少ない生徒が多い傾向にあることが課題である。

〈自尊意識について〉

「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがありますか。」の回答は9割以上、全国・県平均とほぼ同じで、達成感を感じた経験は多数の生徒が持っていることがうかがわれる。しかし、「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していますか。」や「自分には、よいところがあると思いますか。」の質問に対してはいずれも5割強の回答。全国・県平均をかなり下回っている。こういった自尊意識は、町内・区内においても課題としてよく話題になるが、本校も経年比較においても、国・県に比べ、やや低い傾向にある。

「挑戦・自信」が来年度以降、キーワードになると考える。

2 課題等を踏まえた今後の取組の方向性や新たな方策等について

【国語科】

〔話すこと・聞くこと〕

◇話の展開に沿って、自分の考えと比較しながら、発言を選択する学習活動を行う。

◇ペアやグループで互いの主張や根拠を確かめながら学習活動を進める。

◇互いの発言を検討し、自分の考えを振り返り深く考える学習活動。

〔書くこと〕

◇根拠を明確にして説明し、書く。それを学習者相互で推敲し合う活動を取り入れる。

◇複数の資料から得た情報を、自分の考えにつなげて具体的に書くこと。

〔読むこと〕

◇実用的な資料を提示し、何を知らせようとしているのかという観点から全体を見て情報を捉える学習活動を行う。

◇書かれている内容を理解するとともに、互いの感想を交流して新たな課題を設定する学習活動を行う。

〔伝統的な文化と国語の特質に関する事項〕

◇漢字学習や新聞コラムを使った課題を通して、語感を磨き語彙を豊かにする指導を行う。

◇日頃から物語や小説を読む際、文脈に沿って文節や単語の働きを捉える。

【数学科】

◇全体的に新たな単元に入る前に、既習の事項を取り入れるなど、スパイラル方式で、学習の定着を図る。

◇どの領域においても基礎・基本の定着に向け、小テストなどを定期的に行い、反復学習や類似問題に取り組みさせることにより、学力の定着を図る。

◇班やグループなどの小集団学習を積極的に取り入れ、教え合う学習や自分の考えを説明するなどの言語活動の更なる充実を図る。

◇空間図形については、実際に図形を作成したり、自分で手にとって図形を観察したりするなどの数学的活動を積極的に取り入れた授業の工夫改善を図る。

【生徒質問紙から】

○各教科等の領域を越え、次のような取組も求められる。

・新聞を読んでいない生徒が多い実態がみられる中、全国データでは、新聞を読むほど好成績との結果が出ており、活字文化に日常的に触れ、言葉の力を身に付けさせ、「言語活動の充実」を意識した授業づくりに努める。また、家庭の協力も得ながら、言語を意識した生活をするのが大切である。

・ゲームやテレビ、スマホなど、今後ますますの普及を考えると、長期的に大きな課題である。「長時間のスマホをする子ほど成績低下」という全国的な傾向を考えると、この時間を減少させる生活習慣の見直しが必要である。

・約半数の生徒の家庭学習の時間は、「1時間以上、2時間より少ない。」である。村岡区としての家庭学習のきまりの目標値は「1時間30分」である。さらに目標値に近づけるために、家族の協力を得て、正しい生活時間の確立、特に上記のゲーム・メディアに関わる時間の見直しが必要と考える。また、学習の内容、方法についても深めていかなければならない。

